

MD050_SPF_COS_003 HHTシステム連携	説明: HHTシステムと各種データを連携する(INBOUND、OUTBOUND)	作成日	2008/06/17	作成者	ORACLE 木村	更新日	2009/03/13	更新者	SCS岡口	Ver.	Issue3.0
-----------------------------	--	-----	------------	-----	--------------	-----	------------	-----	-------	------	----------

処理概要

EDI受注において営業車から出荷する場合、HHTシステムへ受注情報を連携する

システム利用者

システム管理者(自動起動)

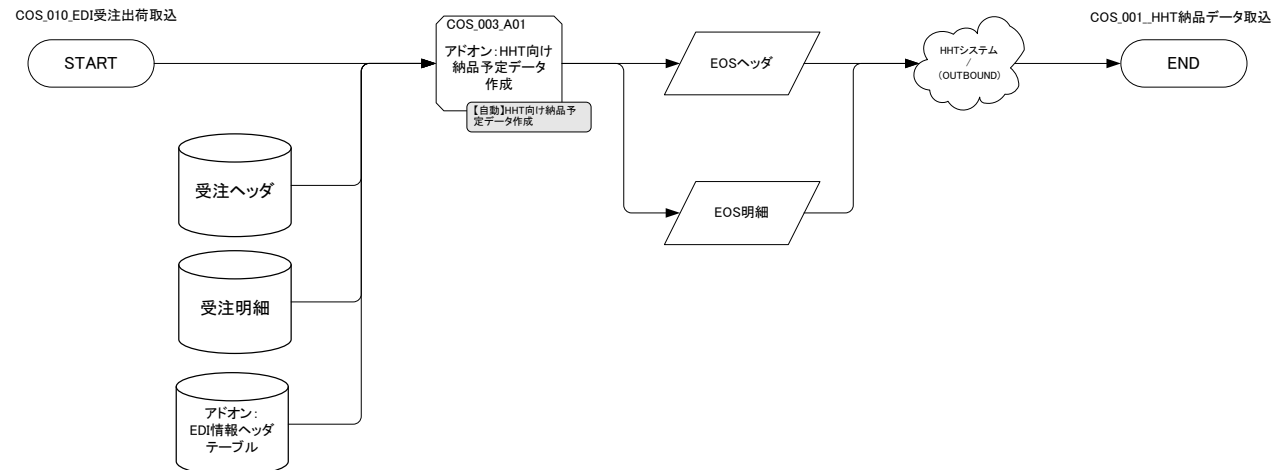
処理タイミング、その他

日次定期実行(日次1回、現行HHTシステムは夕方受信)

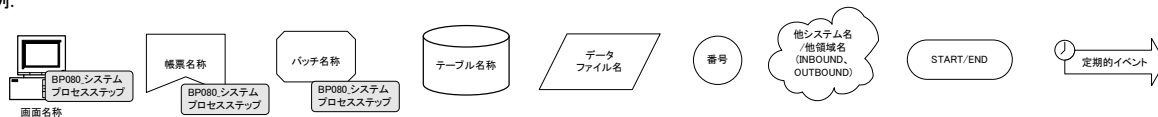
EDIシステムから当日受信したデータのみを対象とする

システムプロセス 記入時の注意事項

- 機能単位(標準機能含む)で記入すること
- INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- 左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- 1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- 1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



MD050_SPF_COS_003 HHTシステム連携	説明: HHTシステムと各種データを連携する(INBOUND、OUTBOUND)	作成日	2008/06/17	作成者	ORACLE 木村	更新日	2009/03/13	更新者	SCS岡口	Ver.	Issue3.0
-----------------------------	--	-----	------------	-----	--------------	-----	------------	-----	-------	------	----------

処理概要

HHTシステムへ単価マスタを連携する

システム利用者

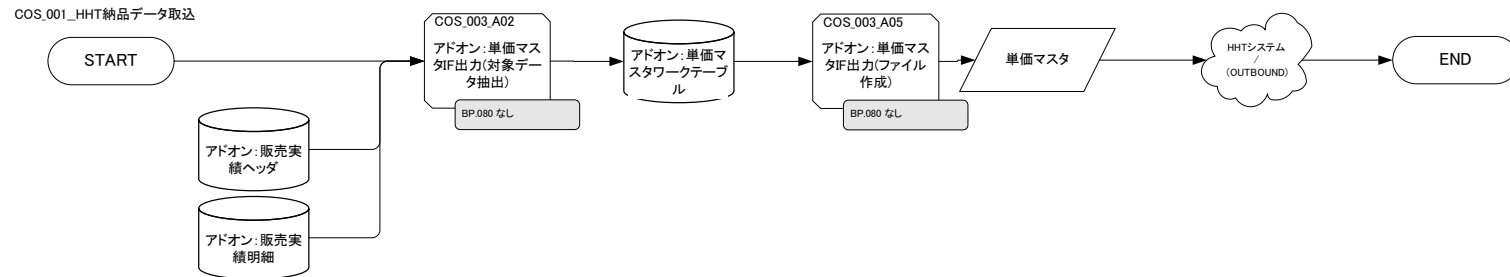
拠点、マスタ管理者、システム管理者(自動起動)

処理タイミング、その他

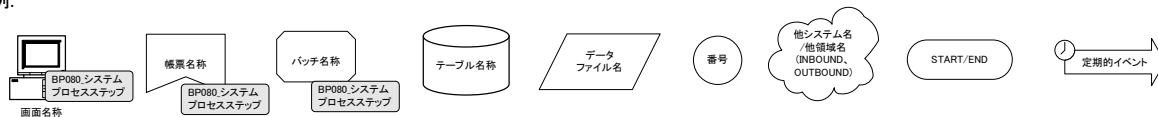
単価マスタは、日次定期実行(日次1回)、対象データは全件(但し、過去1年分)

システムプロセスフロー 記入時の注意事項

- 機能単位(標準機能含む)で記入すること
- INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- 左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- 1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- 1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



MD050_SPF_COS_003 HHTシステム連携	説明: HHTシステムと各種データを連携する(INBOUND、OUTBOUND)	作成日	2008/06/17	作成者	ORACLE 木村	更新日	2011/09/27	更新者	SCS中村	Ver.	Issue3.1
-----------------------------	--	-----	------------	-----	--------------	-----	------------	-----	-------	------	----------

処理概要

ベンダ納品実績ファイルを連携する

システム利用者

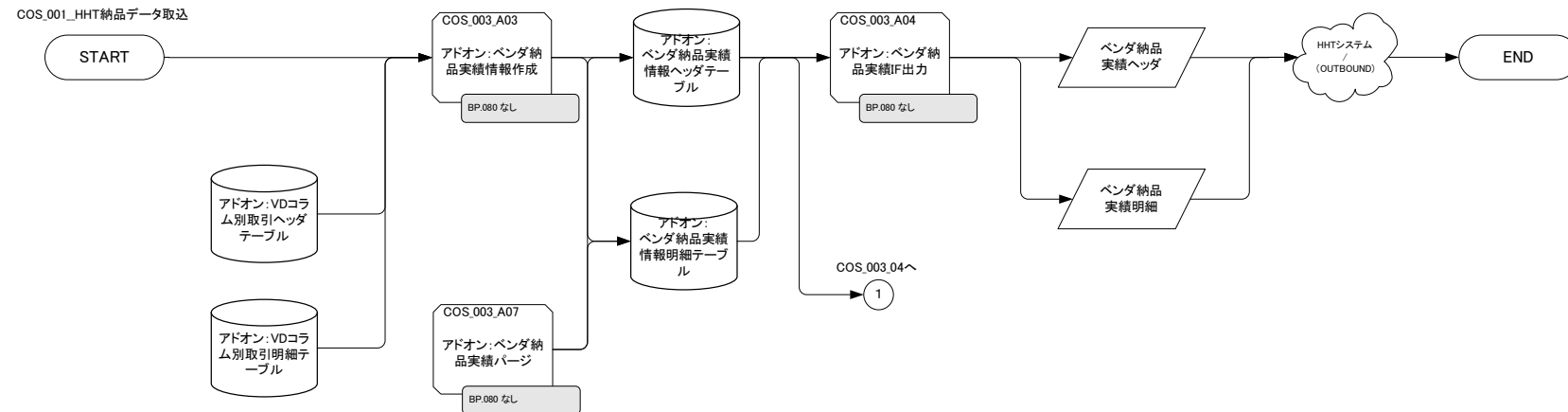
システム管理者(自動起動)

処理タイミング、その他

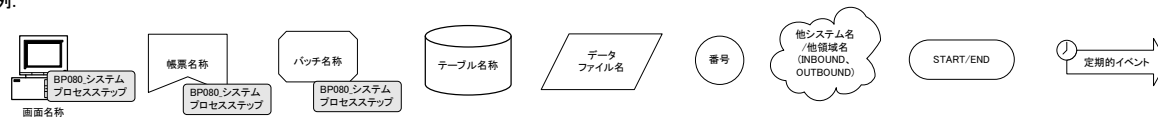
ベンダ納品実績ファイルは、日次定期実行(日次1回)、対象データは前回送信データとの差分のみ

システムプロセスフロー 記入時の注意事項

- 機能単位(標準機能含む)で記入すること
- INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- 左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- 1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- 1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



MD050_SPF_COS_003 HHTシステム連携	説明: HHTシステムと各種データを連携する(INBOUND、OUTBOUND)	作成日	2011/09/09	作成者	SCS石渡	更新日	2011/09/09	更新者	SCS石渡	Ver.	Issue1.0
-----------------------------	--	-----	------------	-----	-------	-----	------------	-----	-------	------	----------

処理概要
ベンダ納品実績テーブルから販売予測情報をVDコラムマスタへ更新する

システム利用者
システム管理者(自動起動)

処理タイミング、その他
販売予測情報更新は、夜間定期実行(日次1回)、対象データは前処理で更新されたデータのみ

- システムプロセスフロー 記入時の注意事項**
- 機能単位(標準機能含む)で記入すること
 - INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
 - I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
 - 左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
 - 1ファイル、1システムプロセスフローとすること
 - フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを明確にすること
 - 1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:

